

第 1 回災害支援訓練

実施報告書

広域リサイクル事業協同組合

第1回災害支援訓練実施報告書

広域リサイクル事業協同組合

日 時：平成24年3月8日（木）8：30～12：30

場 所：小田原市諏訪原（トレープラスチック減容施設横）

参加者：小田原市環境部14名、広域リサイクル事業協同組合45名

趣 旨：災害時相互応援に関する協定を締結している中で、災害が発生した際にスムーズな対応ができるかどうかを確認し、かつ、応援活動に対する相互理解を深める。

内 容：平成24年3月8日（木）8：30に発生した地震（M7.0）の影響により、小田原市が被災し、市内の避難所設置による仮設トイレの汲取りと臨時ステーションのごみ収集、震災ごみ増加・道路事情悪化により家庭ごみの収集・運搬に支障をきたしているという想定のもと、応援活動の開始準備までを行う。

訓練概要：緊急連絡網による安否確認、災害時相互応援協定に基づく、応援要請から応援活動の準備までを行う。

主な使用機材：

バキューム車	8台
大型バキューム車	1台
パッカー車	7台
パワーゲート	2台
大型ダンプ	1台
仮設トイレ	10基
仮設テント（3m×3m）	1張
車両看板	20枚
机	1台
パイプ椅子	15脚
ブルゾン（責任者のみ）	5着
交通誘導灯	3個
拡声器	2個
白板	2枚
非常食セット	48個
防塵マスク	2セット
腕章	3個

タイムテーブル

8 : 30	発災による訓練開始
8 : 40	組合員の安否確認。各市町村への応援要請の受入体制の有無を確認。
8 : 45	施設の被害状況調査
8 : 55	小田原市からの応援要請受理。
9 : 00	組合事務局から組合員へ応援要請及び出動要請。
10 : 30	全派遣班、集合場所に到着（小田原市諏訪原 トレープラスチック減容施設横） 司会進行 浅田理事（防災・技術担当） 開会挨拶 加藤副理事長 参加者紹介 訓練行程説明 小田原市から応援要請の内容説明 ・ 市内 4 箇所の広域避難所の設置とそれに伴う仮設トイレ汲取り、ごみ収集 - 酒匂小学校、山王小学校、三の丸小学校、新玉小学校 班編成（2 班） 責任者会議（浅田統括、勝俣班長、高橋班長、小田原衛生担当者） 班別ミーティング ・ 仮設トイレ汲取り箇所説明 ・ 臨時ステーション箇所説明 ・ 危険箇所、道路事情説明 ・ 運行計画作成、作業指示
11 : 10	浅田統括より出動命令
11 : 25	訓練終了式 来賓挨拶 大野副市長 主催者挨拶 鈴木理事長
12 : 30	訓練場所清掃、後片付け 解散

現地案内図

小田原市諏訪原地内



現 地

訓練状況

集合



開会



環境部と合流



訓練状況

班別ミーティング



出動準備 1



出動準備 2



神静民報 2012 年 3 月 9 日 (金)

17団体が災害に備え 環境センター初の合同訓練

小田原市

小田原市環境事業セ
ンター(同市久野)で

8日、初の合同災害訓練(マクニチュード7)が実施された。主催は市環境部(井澤幸雄部長)と広域リサイクル事業協同組合(鈴木茂理理事長)。小田原衛生公社をはじめ伊勢原市や座間市の組合など計17団体から43人が参加し、連携を深めた。

東日本大震災の発生から丸1年が経過し、同市では地震や台風などの災害に備えようと、民間企業など災害時相互応援協定を締結。主にゴミやし尿処理を専門とする同組合と連携し、災害発生時にスムーズな対応ができるかを確認し、応援活動に対する相互理解を深める目的で訓練は実施された。

訓練の想定では、早朝8時半に発生した地震の影響で被災。市内には市環境部の2カ所の避難所に設置した仮設トイレの汲み取りと臨時ステーションのゴミ収集、震災による増加、道路事情悪化による家庭ゴミの収集、運搬に支障を来したという内容だった。

市からの避難者状況の報告を元に、迅速に仮設トイレを設置、また、遠方からの応援者に対しては同市の地理に詳しい地元職員と行動を共にするなどの指示出しなどを確認した。

終了式で、大野雄雄副市長は「訓練を繰り返して実施し、共に力を携えて災害に備えよう」とあいさつ。井澤部長は「官・民の協働の必要性を感じた。訓練では仮設トイレ10基、バキューム車8台をはじめパッカー車など計19台が出動し、配置について的確な指示・行動が出たことを確認し、今後に生かしたい」と話した。

また、鈴木理事長は「自分たちが市民を支えるという強い気持ちを持つことで訓練の成果がでる」と話した。

郷土の話は
『神静民報』で



ポスト広告 2012 年 3 月 23 日 (金)

街の話題

避難所での衛生管理を確認 市と民間業者が合同防災訓練

もし震災が起きたら、避難所での廃棄物処理の問題をどうするか。県西部のゴミ収集・廃棄物処理業者を中心に17社が組織する「広域リサイクル事業協同組合(鈴木茂理理事長)」と小田原市環境部が、

今日(8日)に市内の環境事業センターで合同防災訓練を行なった。

当日は、「朝8時30分に大地震が発生。小田原市内に避難所を設置したが、ゴミの回収が市単独では不可能なため、同組合に応援を要請」という事態を想定。市から連絡を受けた組合各社がバキューム車やパッカー車に乗ってセンターに集結。市職員に各避難所の人数、仮設トイレや臨時ステーションの数を確認し、現場へ出動する訓練を実施した。

小田原市と民間の処理業者による合同訓練は今回が初めて。代表の鈴木さんは「廃棄物の処理は3日以内の迅速な対応が必要。行政との連携の仕組みを作り、災害時にすぐ実行できるようにしたい」と話す。



▲小田原市からの要請を受け、県西部の各地から集結した組合各社。



市が伝える避難者数をもとに、ゴミの回収数などを推測。そこから派遣人数や車両数を決め、現場へ向かう。

今後、場所や内容を変えて定期的に実施し、防災対策を鍛えていくそう。